

オクラ等（野菜）／栽培作物の多品目化、経営の安定化、流通・販売の工夫
独自の販売ルート確保と計画生産の実践による経営基盤の安定
 ～株式会社Gy げんたろうファーム（沖縄県石垣市）～

経営体の概要

就農時：平成28年
 基幹作物：オクラ
 経営面積：40a



現在：令和7年
 基幹作物：〈露地〉紅芋、ばれいしょ
 〈施設〉オクラ、ピーマン、きゅうり、なす、
 ミニトマト、ゴーヤー、バジル、かぼちゃ
 経営面積：295a（露地100a、施設195a）

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【事業実施前】

●水源に乏しく、畑かん施設が不備であったため、ため池等からの用水運搬の後、手掛けによるかん水を行うなど、労力を要していた。



【現在】

●国営宮良川土地改良事業（昭和50年度～平成4年度）等によりかんがい施設が整備され、農業用水が安定的に供給。
 ●本事業により、老朽化が進行している施設の改修等を行うことで、新規受益地も含めた農業用水の安定供給を図る。



底原ダム

営農改善、経営転換等のポイント

①栽培作物の多品目化

就農当初はオクラ栽培のみであったが、農業用水が確保できる農地を購入し、かん水施設が整ったことで、きゅうり、ミニトマト等の比較的水が必要な作物も栽培でき、現在は年間を通じて、14棟のハウスで9品目の作物を栽培し、安定的な営農が続けられている。
 作物の栽培には、天敵を使用するなど、農薬使用の抑制に努め、環境や作物の特性に応じた栽培管理を行い、品質の確保と安定生産に取り組んでいる。



施設におけるオクラ栽培

②販路確保と計画生産による経営の安定化

経営体自ら県外で商談を行い、販路を拡大し、現在は主に県外のドラッグストアや大手小売業者との契約栽培を行っている。単価や生産量を事前に協議することで、売上予測・収入の見通しが立てやすくなり、経営の安定化につながっている。



ハウス内のかん水設備

③流通・販売の工夫

オクラについては、県外産地との競合による減収を避けるため、春先の収穫・出荷を目的に、1月に播種を行い、4月から12月にかけて、時期を分散しながら県外に出荷している。
 また、他のオクラとの差別化を図るため、ポリ袋ではなくネット袋に詰め、自社の名前とロゴの入ったラベルを付けて販売したことで、取引量も増加している。



オクラ

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
 関係市町：石垣市
 受益面積：4,338ha
 事業期間：平成26年度～令和10年度
 事業目的：用水改良、畑地かんがい
 主要工事：ダム5か所、頭首工3か所
 揚水機7か所、
 用水路（新設50km、改修55km）

位置図



<問い合わせ先>

沖縄総合事務局
 農村振興課
 企画指導官
 電話：098-866-1652
 （内線：83338）

（令和7年度調査時点）